

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教 師 ノ ー ト

日付	2012年 4月 1日
単元	イースター
テーマ	イエスさまの十字架
タイトル	十字架のイエスさま
テキスト	ヨハネ 19:23-30
参照箇所	マタイ 27 章,マルコ 15:1-41,ルカ 23:13-49,ヨハネ 15:13
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ローマ 3:23-24
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

今日から受難週に入ります。難しい言葉ですね。世界中のクリスチャンが、イエスさまの十字架を思い返しながらかこの一週間を過ごします。イエスさまはどうして十字架にかかれたのでしょうか。そして十字架の上でどんなことを思い、何を話されたのか、一緒に聖書を読んでみましょう。

□ポイント1 イエスさまは、十字架にかかられました(23-24)

イエスさまは何も悪いことはしていなかったのに、人々はイエスさまを「十字架につけろ」と激しく叫びました。それで、総督ピラトはイエスさまを十字架につけるために引き渡したのです。ゴルゴタの丘で2人の犯罪人と一緒にイエスさまは両手両足に釘を打たれ、茨の冠をかぶせられ、十字架にかけられました。十字架の下では4人の兵士たちがイエスさまの着物を4つに分けました。しかし、イエスさまの下着(肌着)は縫い目のない高価なものだったので、くじを引いて一人が取りました。それは何百年も前に書かれた詩篇22篇18節に書かれている聖書の言葉が成就するためでした。

問い:死刑(十字架)になる人って、本当はどういう人ですか?…人殺しなど凶悪犯罪者

しかしイエスさまには、総督のピラトが認めるほどに1つの罪もありませんでした。イエスさまの十字架は、旧約聖書に示されていることでした。聖書には、神さまの心が書かれています。イエスさまは、父なる神さまの思いに従われて十字架にかかられました。持ち物も着ているものも、そしていのちさえも、与え尽くす生涯を歩まれました。cf.「まぶねの中に」の歌詞を紹介しても良いでしょう。

問い:十字架の上で、イエスさまはどんなことを思っていたのでしょうか?…ポイント2につなげる

□ポイント2 イエスさまは、マリヤを愛する弟子にお願いしました(25-27)

イエスさまの十字架のそばには、兵士たちだけではなく、お母さんのマリヤやお母さんの姉妹、そしてもう2人のマリヤがいました。イエスさまは十字架の上から、お母さんのマリヤを見ました。イエスさまは、自分が一番苦しい時でしたが、お母さんの悲しみがわかっていました。自分を育ててくれたお母さんを、愛する弟子にお願いしました。このお弟子さんは、その日から、マリヤを自分の家に迎えたのです。

自分がしんどい時、苦しい時、熱が出て病気の時、他の人のことを心配する気持ちになれません。自分のことで精一杯です。でもイエスさまは、神さまを愛することと隣人を愛すること、この2つが一番大切な戒めだと教えられたとおり、神さまを愛して聖書のとおり十字架にかかれ、苦しい十字架の上でもお母さんのマリヤのことを愛して心をくばられました。もちろんイエスさまはマリヤだけではなく、私

たちのことも愛しているからこそ十字架にかかられました。 cf. 「両手いっぱい愛」の歌詞を参照

□ポイント3 イエスさまは、十字架の上で死なれました(28-30)

それから、イエス様は自分のすべき事が全部終わった事がわかりました。イエス様が「わたしは渴く」と言われたので、兵士の一人が酸っぱいぶどう酒を含ませた海綿(スポンジのようなもの)をイエス様に差し出しました。イエス様は、それを少し口に含むと、「完了した」と言われました。そして息を引き取りました。

テレビや映画で「あー無念じゃ」、「死ぬに死ねない・・・」そう言いながら死んでいく人の姿を見る時があります。そこには「もっとこうすれば良かった。こうなれば良かった・・・」という後悔があるのでしょうか。しかしイエスさまは、最期に「完了した」と言われました。これは「終わってしまった」という意味ではなく、「完成した。成し遂げられた」という意味です。滝に打たれて修行をしたら救われるのではなく、もっと良い子になったらイエスさまが愛してくれて救われるのではなく、罪のないイエスさまが私たちの身代わりとなって十字架にかかって下さったからこそ、私たちの罪はゆるされ、救いは完成されます。自分の罪を告白して私たちを命がけで愛している十字架のイエスさまを信じる、このこと以外に救いはありません。救い主イエスさまを信じてイエスさまと一緒に歩む時、私たちもイエスさまのように神さまを愛し、隣人を愛していくことができます。

□結論 罪のないイエスさまが、聖書(神さまの思い)の言葉のとおり、私たちの救いを完成するために十字架にかかって死なれました。 暗唱聖句を読み上げます

イエス様があなたのために、十字架にかかって罪をゆるして下さった事を感謝しましょう。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

罪のないイエスさまが、私たちの罪のために十字架にかかって下さったこと、イエスさまは私たちの救い主だということをもう一度一緒に信じていきましょう！

1. 近くにいる人を赦せない、愛せない、仲良くできない、そういうことはありませんか？
2. 「どうして、こんな目にあわなければならないのか」という傷や痛み、悲しみを持っていませんか？
3. 「あの時、あんなことをしなければよかった」という後悔はありませんか？
4. 「もっと良い人になったら、イエスさまから愛される」と思っていないですか？

イエスさまは十字架の上で救いを完成して下さったので、どんな後悔も痛みも罪も、全部ゆるして、いやして下さいます。修行をつんで頑張ったから、テストで 100 点をとったから、イエスさまから愛されるわけではありません。聖書の示すとおり、自分の罪を告白し、悔い改めましょう。すべての罪はゆるされます。あなたはイエスさまから愛されているのです。

教師ノート

日付	2012年 4月 8日
単元	イースター
テーマ	生きておられる主
タイトル	よみがえり
テキスト	ヨハネ 20:11-18
参照箇所	マタイ 28 章,マルコ 16 章,ルカ 24:1-12
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	I ペテロ 1:3b

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

□導入

今日は、イースターです。クリスマスは「メリー・クリスマス！」とお祝いの言葉を言いますが、イースターは何て言うか知っていますか？「ハッピー・イースター」と言うそうです。先生が最初に言うので、その後みんなで「ハッピー・イースター」と言ってみましょう。「ハッピー・イースター！」

イースターは、十字架にかかって死なれたイエスさまが甦ったことを記念する復活祭です。どうして世界中でイースターをお祝いするのでしょうか？世界で最初にイースターの喜びを体験した女性のお話しを読んでみよう。

□ポイント1 マリヤは、泣いていました(11-13)

(1-10節を短く要約) イエスさまは十字架にかけられ、新しい墓に葬られました。その日は金曜日で、3日目の日曜日にマグダラのマリヤが朝早くに墓に行ってみると、墓から石が取りのけられ、なんとイエスさまの遺体がそこにはありませんでした！！ 急いでペテロともう一人の弟子に伝え、2人もお墓に走って行きました。2人はイエスさまの体がなくなっているのを確認し、自分のところに帰りました。

しかしマリヤは、イエスさまの体が盗まれたと思い込み、悲しくなり泣きながらもう一度お墓の中をのぞき込みました。すると2人の白い衣を着た御使いがいて「なぜ泣いているのですか」とマリヤに尋ねました。するとマリヤは「誰かが私の主を取っていき、どこに置いたのかわからないのです」と言いました。

□ポイント2 イエスさまが、マリヤに現れました(14-15)

マリヤが後ろを振り返ってみると、何とそこにイエスさまが立っておられたのです！しかしマリヤは、その方がイエスさまだとは分かりませんでした。イエスさまは「なぜ泣いているのですか？誰を探しているのですか？」とマリヤに尋ねました。でもマリヤは、まだイエスさまだと分からず、園の管理人だと思い、「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのですか。私が引き受けます」と言いました。

問い: マリヤは、どうして自分の目の前にイエスさまがおられるのに分からなかったのでしょうか？

問い: 私たちもイエスさまがよみがえって今も生きていることを信じているのですが、「本当にイエスさまは生きておられるのかなあ？」とイエスさまのことが分からなくなってしまうことはありませんか？どんな時にそう思いますか？

□ポイント3 マリヤは、イエスさまがよみがえったことを知りました(16-18)

イエスさまは、「マリヤ」と声をかけました。その時、マリヤはイエスさまだとわかったのです。そしてヘブル語で「ラボニ・先生」と言って、イエスさまが死からよみがえったことが分かったのです。マリヤはイエスさまに言われた通り、お弟子さんたちにイエスさまがよみがえったこと、イエスさまが話されたことを伝えました。

問い: マリヤは、どうして目の前にいる人がイエスさまだと分かったのでしょうか？また探していたイエスさまがよみがえり、今、目の前にいることを知り、どんな思いだったでしょう？

問い: 私たちも「イエスさまは生きておられる！」と喜びながら感謝する時があると思います。それはどんな時に「やっぱりイエスさまは生きておられるんだあ」と実感しますか？(祈りが答えられたり、危険から守られたり・・・)

□結論 イエス様は、今も生きておられます

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

ここにイースターエッグがあります。新しいいのちのひな鳥が殻を破り誕生する様子を、大きな石が転がされ、死を打ち破りよみがえられたイエスさまのことを象徴して、イースターにはたまごが飾られるようになりました。どんな悲しみも、つらいことも、しんどいことがあっても、よみがえりのイエスさまを信じていく時、新しいいのちをもって生きる力が与えられていきます。

1. 喜びましょう！

マリヤのように泣きたくなる時、ありませんか？ 悲しみでいっぱいになって、何が何だか分からなくなることも、みんなにもあるよね。イエスさまは一番悲しい死を打ち破られてよみがえられた神さまで。そのイエスさまが、今朝、私たち1人1人の名前を呼んでおられます。今も生きておられるイエスさまは私たちを助け、励まし、共にいてくださいます。

2. みんなでお祝いしましょう！

マリヤは弟子たちにイエスさまのよみがえりを伝えました。私たちも友だちに「イエスさまがいるから大丈夫。イエスさまはよみがえって、信じる私たちと一緒にいるんだよ」と伝えていきましょう。そして、みんなと一緒にイエスさまの復活をお祝いしましょう。

3. 希望があることを喜びましょう！

死んで終わりではありません。死は悲しいものです。しかしイエス様は、死を打ち破られました。だからよみがえりのイエス様を信じる人は、イエス様と同じようによみがえって、天国でもう一度会えるのです。これが私たちの希望です。ハレルヤ！！

教 師 ノ ー ト

日付	2012年 4月15日
単元	イースター
テーマ	愛の回復をして下さる主
タイトル	あなたは、わたしを愛しますか
テキスト	ヨハネ 21:15-22
参照箇所	ヨハネ 18:15-18,25-27,マタイ 26:31-35,マルコ 14:66-72,ルカ 22:31-34
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Iヨハネ 4:19
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまが十字架にかかれる時、ニワトリが鳴く前にペテロはイエスさまのことを3度知らないと言いました。ペテロにとっては、触れて欲しくない少し前の失敗の出来事でしょう。イエスさまを裏切り、失敗したペテロに、よみがえりのイエスさまは、どのように声をかけられたのでしょうか？

□ポイント1 イエスさまは、ペテロに質問しました(15-17)

イエスさまは、ペテロに「あなたはわたしを愛しますか」と質問しました。ペテロは、「はい。私があなただを愛することはなたがご存知です」と言いました。イエスさまはペテロに同じ質問を3度しました。

仲良くしている友だちが、別の人に私のことを「あの人のこと知らないよ。友だちじゃないよ」って言っているのを聞いたら、みんなだったらどう思いますか？ペテロがイエスさまのことを3度も知らないと言った時、イエスさまはどう思ったのでしょうか？またペテロはその時のことをどう思っているのでしょうか？

普通の人だったら、「どうしてあの時、僕のことを知らないっていったんだい？」と言うかもしれません。でもイエスさまは3度も知らないと言ったペテロに対して、「あなたはわたしを愛しますか」と3度も言われました。イエスさまは、裏切られても赦し、愛し合う関係を大切にしているのですね。

□ポイント2 イエスさまは、「わたしの羊を飼いなさい」と言われました(15-19)

イエスさまは3度、ペテロに「わたしの羊を飼いなさい」と言われました。そして「他の人があなたの行きたくない所に連れて行きます」とも言われました。

イエスさまのことを知らないと言ったペテロですが、イエスさまはペテロを信頼してイエスさまの働きを任せているのです。それはペテロが自分のやりたいことをするのではなく、ペテロの行きたくない所に連れていかれるようなことになるとイエスさまは言われました。しかしそのことを通して、神さまの栄光が現れ、神さまって素晴らしいと多くの人々が神さまを賛美するようになるのです。

実際、イエスさまの十字架の時には人々の目を恐れてイエスさまのことを知らないと言ったペテロですが、よみがえりのイエスさまの言葉に励まされ、また聖霊の力をいただいて、イエスさまと同じように迫害されても、捕まえられても、それでも人々にイエスさまのことを伝える働きをしました。

□ポイント3 イエスさまは、「わたしに従いなさい」と言われました

イエスさまは、ペテロに「わたしに従いなさい」と言われました。ペテロは近くにいる弟子を見て「この人は、どうですか」とイエスさまにたずねました。イエスさまはペテロに「あなたはわたしに従いなさい」と再び言われました。

「この人はどうですか？あの人はどうですか？」と私たちは周りの人たちを気にしてしまうことがあります。でもイエスさまは「他の人ではなく、あなたはわたしに従いなさい」と言われました。

☞伝承ですが、ペテロの最後は逆さ磔(はりつけ)にされて殉教したとされています。映画「クオ・ヴァディス」なども迫害時代を生きたペテロたちの歴史背景を知るのに参考になります。

結論 イエスさまは、失敗した人も受け入れ、用いて下さいます

暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. 「イエスさまを愛します」と告白しましょう

「イエスさまは、僕のことを愛してくれているだろうか？」と不安になる必要は全くありません。イエスさまの愛は永遠の愛なので、増えたり減ったりしません。大切なことは「あなたはイエスさまを愛していますか？」というイエスさまの質問に心から「主よ、愛します」と答えていくことです。私たちが心から「イエスさま、今日もあなたを愛します」と告白していくなら、私たちの毎日は変わってきます！

2. イエスさまのために何ができるでしょうか？

イエスさまを愛する人は、イエスさまに従い、イエスさまのために何かをすることができます。それは他の誰かと同じでなくても良いのです。愛するイエスさまのために今の私に何が出来るか、この1週間、イエスさまに聞きながら祈りましょう。そして来週、みんながどんなことを決心したか、聞き合いましょう。（先生は、小学生の時に、教会の犬を散歩に連れて行ったり、分級の準備や片付けを手伝ったよ！）

3. ペテロのように失敗して、心を暗くしている友だちはいませんか？

自信を失っている友だちはいませんか？そういう友だちがいたら、「イエスさまがいるよ。裏切り失敗したペテロを励ましたイエスさまがいるよ。イエスさまは、立ちあがる力を与えてくれるよ」と励まし、祈り、教会に誘いましょう。

4. 仲が悪くなっている友だちはいませんか？

以前は仲良かったけれど、誤解や意地悪や失敗、裏切り、悪口、ケンカ・・・、そういうことで仲が悪くなっている友だちはいませんか？本当は仲良くしたいんだけど、そう出来なくなっている友だちはいませんか？私たちがあきらめないで愛してくれるイエスさまから、私たちも本当の愛をもらって、仲直りをする力をもらいませんか？

教師ノート

日付	2012年 4月22日
単元	イースター
テーマ	天に上られた主
タイトル	約束
テキスト	使徒 1:3-11
参照箇所	ルカ 24:13-26, ヨハネ 14:2-3,16-17,26,15:26,16:7-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	使徒 1:8
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

みなさんは、「約束」をしたことがありますか? 「約束」は必ず守ることがとても大切なことです。最初から、守らない約束なんて、意味がないですよ。時々、みなさんのお父さんやお母さんは、約束を守らないと怒るでしょう? 反対にお父さんやお母さんが約束を守らないときも、みなさんは怒るんじゃないですか?

イエス様も最後の時に、お弟子さんたちと約束をしたのです。さて、どんな約束だったのでしょうか。

例話)三浦綾子『塩狩峠』(新潮文庫)の中で、主人公の信夫が小学生の時の話が出てきます。学校のトイレにお化けが出るかどうかを確かめるために夜の8時に桜の木の下に集まるという約束をしました。しかし雨が降って来たので信夫は「行かない。誰も来てないから」と両親に言うと、「約束を破るのは、犬猫にも劣るものだよ。守らなくてもいい約束なら、はじめからしないことだな」と父親が言いました。しつこく信夫が雨の中を桜の木の下まで出かけてみると、何と永野君がいたのです。信夫が「ひどい雨なのによく来たな」と言うと、永野君は「約束だからな」と言いました。信夫は、お父さんに行けと言われたから仕方なく来たことを恥ずかしく思いました。この後、信夫と永野君は、生涯の親友になっていくことになりました。(45-60 頁)

□ポイント1 イエスさまは弟子たちに約束をしました(4-5)

よみがえったイエスさまは、弟子たちと一緒にいる時に、「エルサレムから離れないで、父なる神さまの約束を待ちなさい」と命じられました。父なる神さまの約束は、聖霊のバプテスマを受けるという約束でした。

⇒ポイント1か2で、聖霊のバプテスマについて、期待を持たせるように説明をしましょう。

今日の内容では、来週からの単元にならないと、子どもたちには聖霊のバプテスマのことが良く分からないかもしれません。それは弟子たちがペンテコステの日まで、聖霊のバプテスマのことが良く分からなかったことと似ているでしょう。ここでは、聖霊については期待感を持たせるように語り(次の単元を読んで子どもたちに適応させながら)、イエスさまは約束を守って下さるお方だという信仰(信頼)が引き出されるように語りましょう。

□ポイント2 イエスさまは、再び約束されて天に帰られました(6-9)

弟子たちは、父なる神さまの約束の本当に意味を分かかっていませんでした。そこでイエスさまは、聖霊の力が与えられる時、よみがえったイエスさまの証人になるという約束をされました。そしてイエスさまは、みんなの目の前で雲に包まれて天に帰られました。

聖霊の力は、私たちの想像を超える素晴らしい力です！力を「デュナミス」というギリシア語が遣われています。これは「デュナミス⇒ダイナミス⇒ダイナマイト！」というように(笑)、ダイナマイトの語源となるぐらい大きな大きな力です！恐がっていた弟子たちが、エルサレム、ユダヤ、サマリヤの全土、地の果てまでも、困難や迫害を乗り越えてよみがえりのイエスさまを伝えていく大きな力です。決して破壊的な力ではなく、イエスさまの衣のすそを触った時にイエスさまから流れた力も「デュナミス」です(ルカ 8:46)。つまり人を癒し、強め、生かす、そういう力を聖霊が与えてくれるという素晴らしい約束なのです。

□ポイント3 御使いたちが、イエスさまが再び来られると告げました(10-11)

弟子たちは、イエスさまが上って行かれた天を見つめていました。どんな気持ちで天を見つめていたのでしょうか？「せつかくよみがえったのに、天に帰って行かれるなんて・・・」、そんな気持ちかもしれません。すると白い衣を着た2人の御使いが弟子たちのそばに立っていたのです。そして2人の御使いは、イエスさまが再び来られると告げました。

*低学年の子ども達に話す場合は、イエス様が天に上げられる様子を言葉だけでなく、その場に自分がいるような気持ちで演技してみてください。子ども達が、この情景を描けるように話しましょう。

⇒「世の終わりまで共にいる」と言われたインマヌエルなるイエスさまが天に帰られたということ、またイエスさまがやがて来られるということは、今はイエスさまが私たちと共におられないように思うかもしれませんが、確かにイエスさまは昇天され、今は父なる神の右に座して私たちのためにとりなしておられます(ヘブル7:25、ロマ8:34)。そして同時に、聖霊によって私たちと共にいて下さるのです。

□結論 イエスさまは、約束通りに聖霊を与えて下さり、やがて再び来られます

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. イエスさまの約束の言葉は、必ず実現します。みんなが信じているイエス様の言葉(聖書の言葉)は、どんな言葉ですか？(先生は恐がりだったので、「雄々しくあれ、強くあれ」という聖書の言葉を信じていました。するとその通り、恐い時も力がわいてきました。また経済的にピンチの時もありましたが、「主は私の羊飼ひ、私には乏しいことはありません」という言葉を信じて祈り、神様は必要の全てを満たしてくれましたよ)
2. イエス様は、私たちへの約束を守ってくれますが、みんなはイエス様との約束を守っていますか？今までイエス様に「聖書を読みます」「お祈りします」「弟に優しくします」などなどいろいろ約束して祈ってきたことを思い出して下さい。そして私たちもイエス様との約束を守る人となりましょう。
3. 家族や友だちと約束したことを守っていますか？
4. 聖霊のバプテスマは必ず与えられます。来週から聖霊について一緒に学びます。「私を聖霊に満たして下さい」って一緒に祈り求めましょう！イエスさまは約束を破られるお方ではありません。またやがてイエスさまは再び来られます。私たちはイエスさまに出会う日があります。その日まで、聖霊の力に満たされていきましょう。